

関連する内容項目：1－(4)

過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。(解説p.49)

事例

場面1 理科の実験における指導

中学年の児童には、うそをついたりごまかしたりしないことや、自分自身に正直であることの快適さを自覚させることが大切です。もし、過ちを犯したときには素直に反省し、すぐに正直に伝えるなど、過ちを改めようとする気持ちを育むようにしましょう。

例えばこんな場面が見られたとき...

Aさんは、理科の授業で実験の後片付けをしているときに、水道の蛇口に誤ってピーカーをぶつけてしまいピーカーにひびが入ってしまいました。

困ったなあ… ピーカーを洗っていたら、水道の蛇口にぶつけて、ひびが入っちゃったよ。
 どうしよう… でも、ひびが入っただけだから、黙っていれば分からないよな。きっと怒られるし、言い出しにくいなあ…
 でも、ぶつけた自分が悪いんだし、次にこのピーカーを使う人が困るから、やっぱり正直に言おう。



先生、ピーカーを洗っていたら、ぶつけてしまい、少しひびが入ってしまいました。すみませんでした。



手にけがはありませんでしたか？それにしても、正直に申し出て謝ることができた君の態度に先生はとても感心しました。勇気を持ってよく話せましたね。少しだとはいえ、そのままにしておけば、次に使う人が手を切っていたかもしれません。正直に話してくれたおかげで、この後に使う人を守ることができました。ありがとう。ただし、次からは気を付けて洗うようにしてください。

【指導上の留意点】

- 過ちに対して頭ごなしに叱らずに、児童の話をじっくり聞き、気持ちを受け止めてから対応することが大切です。
- 「素直に反省してよかった」「心がすっきりした」などと児童が感じることができるよう話をすることが大切です。
- 自分自身に正直であることが、明るい生活を送るためには大切だと気付かしましょう。

場面2 休み時間での指導

児童が思い思いに時間を過ごせる休み時間などでは、感情のままに行動してしまい、時には善悪の判断ができずに過ちを犯すことがあります。素直に反省する態度を育成するには、継続して具体的に指導することが大切です。

例えばこんな場面が
見られたとき...

教室で話をしていたときに、うっかりと壁に寄りかかり、掲示物が破れてしまいました。



献立表が破れていて、掲示係がセロテープで補修してくれていましたよ。知っていましたか？

後で直そうと思っていました。



そう。それでは仕方がないですね。でも、そのままにしておいたのはいけないことです。

すみませんでした。気になってはいたけれど、楽しい話で盛り上がって、あっという間に休み時間が終わってしまったので、「ばれなければいいか」と思ってしまいました。これからは気を付けます。



自分の過ちを認めて謝ることができたのはよいことです。でも、自分の楽しみを優先するため、「ばれなければいい」と思ってそのままにしておいたのは改めなければいけないですね。
これから同じようなことがあったときは、どうすべきかを考えて行動してください。

【指導上の留意点】

- ・ 掲示物一つにもつくった人や掲示した人の思いがあることにも触れることで、自分の過ちについて意識できるように指導することが大切です。
- ・ 同じ過ちでも、故意にやったものとそうでないものとを教師がしっかり見極めて、状況によっては、毅然とした態度で指導することが大切です。

「心のノート」との関連

「自分に正直になれば心はとても軽くなる」(pp. 24-25)

関連する内容項目：2－（3）

友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。（解説p.50）

事例

場面 1

体育「ゴール型ゲーム」に関する単元での指導

ここでは、ゲームを通して、攻撃と守備の技能を身に付けるとともに、みんなが楽しめるようにルールを工夫することをねらいとしています。友人との力関係が少しずつ見られるようになるこの時期に、友達を理解し、助け合う気持ちを育てることが大切です。



今日は、チームで協力してゲームをしましょう。

ポートボールの試合中、ボールをキャッチできずにうつむいてる仲間に対して次のような発言がありました。

ちゃんとボール取れよ。僕だったら上手に取れるのに。



チームで協力するのが今日のめあてです。今の言葉を聞くと相手がどんな気持ちになりますか。
仲間を責める言葉ではなく、やる気が出る一言や励ましの言葉を具体的に考えてみましょう。



ドンマイ
ドンマイ

次は
取れるよ。

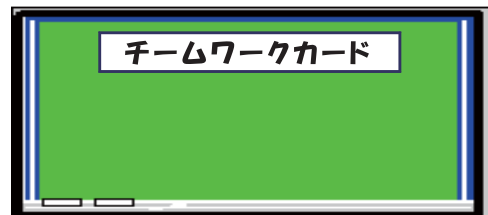
おしかっ
たよ。

ボールを
よく見よ
うね！

ナイス
トライ！



心が温かくなってやる気が出る言葉ですね。みんなが見付けてくれた言葉を「チームワークカード」に書いておきましょう。ゲームだけでなく、普段でも友達と助け合って生活していくことが大切です。



〔体育館にある黒板〕

【指導上の留意点】

- ・ 友達のよいところを認め合い、励まし合って練習やゲームをすることができるような態度を身に付けられるように指導することが重要です。
- ・ チームワークカードを常に目に触れるところに掲示しておき、友達と助け合うことの大切さを感じ取ったり、実践できるようにしたりしていくことが大切です。

場面2

児童集会での指導

児童集会は、児童一人一人が同じ目的に向かい、協力して活動するよい機会です。学校生活をより楽しく豊かにしていくことや、児童の連帯感、仲間意識を育てることができるように指導することが大切です。



6年生が中心となり、種目を決めながらポイントラリーをします。学年や競技内容を考えながら、和やかに縦割り班活動を行っているところです。

学年もクラスも違う仲間だけど、みんな仲良く頑張っていますね。3年生の二人は競技を終えて、これから応援するところです。ここまでやってきて、どんな感想を持っていますか。

1年生には、ポイントをとるためのコツを教えてあげたら、「教えてもらったとおりにやったら成功したよ」と喜んでもらうことができました。



6年生の種目は難しそうだったのに上手にできていたのすごいいいと思いました。最後にまた6年生だけの種目があるからわくわくします。

僕は、4年生と声を掛け合って頑張ったから、とても楽しかったです。



僕たちの班は、5年生が応援歌を考えてくれました。手拍子まで入っています。この後の応援でしっかり盛り上げます。

(帰りの会で)



今日は、どの班もチームワークがよかったですね。一人ではできないことも仲間がいれば頑張れることがあります。みんなで協力したり認め合ったりできると、とてもうれしい気持ちになりますね。これからもいろいろな場面で、友達と助け合っていきましょう。

【指導上の留意点】

- ・異年齢集団で活動するよさを生かして、仲間の輪を広げるとともに、助け合うことの気持ちよさを感じ取れるように指導することが大切です。
- ・このような活動を通して、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切です。

「心のノート」との関連

「ひとりじゃないからがんばれる」(pp. 44-47)